

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度 第2回 学校運営協議会及び学校評議員会		
開催日時	令和6年9月24日(火)		
開催場所	A棟2階 音楽室		
出席者	令和6年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 8名(本校校長を含む) 令和6年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員 10名		
次回開催予定日	令和6年12月11日(水)		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 坂梨 尚美 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
<p>1 会長挨拶</p> <p>よろしく申し上げます。</p> <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館と木工室の空調工事を進めており、早ければ1月にも使用できるようになる。環境が整うことで、気温に左右されず、より安全に充実した教育活動ができるようになる。 ・2学期行事について、今月は高3が大阪へ、来月は中3が名古屋方面、小6が三浦方面へ修学旅行を実施。11月には学習発表会に代わって校内作品展を開催。 ・今年度の神奈川県教員採用試験は全校種で応募者が減少。特別支援は2割近く減少。ブラック、心の病、不祥事等、報道によって教員の印象が悪くなっている部分もあると思う。だからこそ学校現場から教員の魅力を発信していけたらと考える。 自らやりがいをもって業務を工夫し、やりたい仕事に取り組んでいけるような余裕をもつことが大事。一部の教員に業務が偏りがちなので、平準化を目指している。 ・本日は、中間評価、切れ目ない支援部会の報告について、忌憚のない意見をいただきたい。 <p>3 出席者及び会成立の確認(事務局) 副校長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8名出席、会は成立 <p>4 資料確認、流れ説明(事務局) 副校長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の訂正 資料1 題名の(案)を削除 中間評価 スライド資料のつづり 資料4 → 資料3 に修正 ・本日の流れは次第のとおり、この後は渡部会長に進行をお任せする。 <p>5 議題(報告・説明)</p> <p>①「学校評価」中間評価 (令和6年度 年間目標等関連資料 → 資料1・2)</p> <p>◆各学部・グループより 資料3 スライドに沿って説明</p>			

<小学部> (教頭)

- ・「さん」づけ呼称。このまま定着をめざしていきたい。2学期は別テーマを設定する。

<中学部> (中学部L)

- ・スライドに沿って説明

<高等部> (高等部L)

- ・昨年度悪天候のためできなかった光陵高校との交流について、天候に左右されない形での交流を検討してきた。

<舞岡> (教頭)

- ・舞岡分教室では清掃指導に力をいれており、先日行われた清掃技能検定には45名中21名の生徒が参加し、それぞれ級をいただいた。自信をつけ、進路選択につなげられるとよい。

<横浜平沼> (教頭)

- ・1年生は学校周辺の草刈りの他、岡野公園、TVKハウジング、郵便局等の近隣企業でも清掃活動を行っている。先方との関係が定着しつつある。

<管理運営G 和田迫GL>

- ・火災発生を想定した避難訓練では消防署の方からよい評価をいただいた。
- ・校内で同時多発的にけが人が発生する状況を想定した防災訓練を実施。情報伝達方法や情報整理方法などの課題改善に向け検討を進めている。

<教育企画G 教頭>

- ・教職員対象に2つの人権研修会を実施、当事者の意思尊重について学習した。
- ・本校入学後、本人に適した教育の場だったのか、中学校の進路指導はこれでよいのかといった意見があがる。中3だけでなく小中学校教員対象の説明会について必要性を感じる。

<教育支援G 櫻井GL>

- ・今年度はオンラインとのハイブリットで公開講座を開催し、外部参加者が増加した。
- ・緊急時薬対応とは、てんかん発作時の坐薬、食物アレルギー時のエピペン等。緊急時に「パッと見てわかる・動ける体制づくり」を軸に改善を図っている。

<連携支援G 辻田GL>

- ・双方向で学びあいができることが大事。出前授業ではイヤーマフの体験も行った。
- ・光陵高校から教職基礎実習として生徒31名の受入れをしている。

②「切れ目ない支援部会」中間報告 資料4 小倉教頭

<要綱について>

- ・近隣住民、保護者、教職員それぞれの目的を記載。
- ・今後もご協力いただける企業を広げられると、進路支援の充実にもつながると考える。

<中間報告>

- ・資料に沿って説明

◆質疑応答

意見 (A委員)

- ・「地域の必要な人に支援を届ける」というよりも、「障害のある方を地域がどう理解し、受け入れていくか」ということが大事ではないか。

意見（会長）

- ・ A委員の意見は本質的。タウンミーティングで何らかの形で触れられるとよい。
また、「地域で暮らす、学びあう」という部分に、神奈川県で掲げている「共に」という言葉を入れたらよいと思う。

Q：学校間交流とは具体的にどのようなことをするのか。

A：高等部 L

- ・ 昨年度は光陵高校体育祭の一部に参加したが、数年前までは高等部の「職業」の授業に光陵生が参加していた。今年度はそれを復活させ、40～50名の生徒と交流する予定。
ポイントは本校の生徒を「手伝う」のではなく「一緒に学ぶ」こと。事前に障害のある生徒について理解を深められるよう話す機会をもつ予定。

A：教頭

- ・ 分教室は高校の文化祭に参加。作品販売や「ボッチャ」体験コーナー運営などを行っている。生徒は自分たちのできることに取組ながら、双方向での関わりをしている。

A：中学部 L

- ・ 境木中学校の生徒と作業学習の時間に一緒に作業をしている。作品展示交流も行っている。

A：教頭

- ・ 交流の前に小学部の教員が小学校に出向き、保土ヶ谷支援の子どもたちについてレクチャー。
交流活動は、事前に担任間で打ち合わせをして得意なことを発表しあう等の工夫をしている。

意見（副会長）

- ・ 地域のトップ校である光陵高校と横浜国大と力を合わせて立派な教員を育ててほしい。

意見（光陵高校校長）

- ・ 保土ヶ谷支援とは10年ほど前から交流している。以前はひと学年320名の生徒全員が4～6週間にわたり作業で交流していたがコロナで途絶えた。復活するにあたり、さすがに全員は難しいため今年の形となった。かつては、高校の体育の授業に支援学校の生徒が参加することもあった。交流を通し障害のある方と「一緒に体験する」ことが本校の生徒にとっても大変な学びとなっている。

意見（B委員）

- ・ お互いに知り合うことがとても大切だと思う。

意見（権太坂小学校校長）

- ・ 来月は本校の1年生が保土ヶ谷支援学校のスクールバスを見学する予定。
運転手さんや乗務員の方がどのように安全に配慮しているのか、その思いにも気づかせたい。

意見（本校校長）

- ・ 神奈川県には高校生版教育委員会がある。8月の会議では「障害のある子どもたちと過ごすのが小さい頃は当たり前だと思っていたが、中学高校とあがるにつれ、特別なのだと思うようになった」という声があった。進学するにつれ離れていったことから、このような意見につながっているのかもしれない。共に暮らすのが当たり前となるよう取組んでいく必要がある。

意見（C委員）

- ・ 自治会には「コミハ」という作品を展示する場所や発表する場がある。1日限りだが使ってほしい。（今年は選挙等で使えないかもしれないが）

Q：業務アシスタントの雇用形態は？

A：(教頭)

- ・非常勤事務職員として県で雇用。主な業務は管理職の事務補助。今年からアシスタント2名、サポーター2名体制となった。

意見 (D委員)

- ・横浜市は業務アシスタント1名。週4勤務で主な業務はインターホンや電話の対応。インターホンがひっきりなしになるため、不在の日は大変。

意見 (A委員)

- ・県立高校はR5年度に教員業務のアシスタントとして1名配置。R6年度は管理職業務のアシスタントとして1名ついた。

意見 (副会長)

- ・本日の主たる議題は中間評価。4年間と1年間の目標や手立ては概ね論理的に組み立てられている。
- ・中間評価の文書とスライドにずれがある2か所について指摘したい。1つ目は、中学部「5 学校運営・学校管理」の「働き方改革」の部分。正式な文書にないものがスライドに書かれている。2つ目は、横浜平沼分教室「3 進路指導・支援」の「横浜市のケースワーカー」の部分。文書とスライドの説明が食い違う。
- ・文書の方が正式なものだと思うので、スライドが違ってはいけない。管理職もそこはチェックしてほしい。目標、手立てに合わせた評価をしてほしい。

意見 (会長)

- ・学校評価について、それぞれ具体的に進められていることを確認した。できるだけアンケート等で定量的に振り返りができるように客観的評価を示してほしい。

6 協議 重点課題「就労支援、進路支援」の課題について 資料5

◆進路支援 (教頭)

- ・今年度、企業就労に至らないまでも、企業にチャレンジする生徒が昨年度より若干多くなっている。その年々の実態によるものではあるが、昨年度、副会長より本校、両分教室でお話いただいた成果か、就労への意識が高まっている。
- ・夏季休業中に卒業生へのアフターフォローを行ったが大きな問題はなかった。本校では企業就労した生徒のうち、過去3年間で辞めたのは2名。割合では20%ほどになるが、比較的定着していると考えている。

<資料に沿って説明>

- ・進路実習を行う前に、保護者へは進路説明会を生徒へは「働くことを学ぶ週間」を設け知る機会としている。
- ・進路選択、進路決定に向けて何が足りないか、面談等で話し合いながら指導を行っている。

◆防災教育の取り組み (副校長)

<資料に沿って説明>

- ・小中学部でも「防災センター」を訪問し、起震車体験を行っている。

- ・月1回のシェイクアウトを継続することで、小学部の児童でも地震発生の放送を聞くと自発的に机の下にもぐるようになった。
- ・本校南側の斜面は、土砂災害が想定されるためグラウンドへの避難訓練を行っている。
- ・「安全管理マニュアル」は「学校防災活動マニュアル」をコンパクトにして持ち歩けるようにしたもの。
- ・地域と連携した防災訓練を実施していないのが課題。コロナ前は行っていた。
- ・防災教育を学部単位で実践しているが、今後は学部をまたいだ系統的な防災教育を計画・実施していきたい。

◆各委員からの質問・意見

(会長) 資料で提供された情報について、ご指摘やご助言をいただきたい。

意見 (E委員)

- ・昔と今では社会が変わってきている。昔は親御さん同士の横の連携が密接だったと思う。最近では情報化社会なので若い親御さんも情報収集できているとは思いますが、親御さんの横の連携がどのくらいできているか。進路や個別面談についても、希薄になってきているのか。学校としての印象を教えてください。

Q (会長)

- ・保護者の横のつながりとは具体的にどのようなことをイメージされているのか。

A (E委員)

- ・横のつながりが希薄になると保護者のもつ情報が散漫だったり、偏っていたりする。横のつながりがあれば、そのような偏りも軽減するのかと。

意見 (教頭)

- ・やはり、持っている情報は偏っていると感じる。事業所の空き情報や、土曜に受け入れ可能な事業所など、そういった情報はSNS等であつという間に広がる。一方で、どのような支援がされているかなどの情報はそれほどでもない。中にはSNSの輪に入れない保護者もあり、学校からの情報に偏っていたりする。

Q (E委員)

- ・昔は高等部2年生頃から進路を考え始める感じだったが、最近は早い段階で保護者が動き出している。学校からそのように伝えているのか。

A (教頭)

- ・学校からは(情報収集は)早期にと伝えている。意識の高い保護者は、自分で制度を学んで早くから動いている。

意見 (副会長)

- ・先日行われた障害者雇用部会定例会のシンポジウムでは以下の3点が議論になった。
- ①できるだけ早いうちから進路情報を与えないとうまくいかない。特に、センター的機能を生かして、小中の支援級の先生に進路情報を提供していく必要がある。
 - ②高等部3年1学期の実習ですぐに就労をあきらめる先生が多い。最後の最後まであきらめないでほしい。親も進路先を早く決めて安心したいという気持ちがある。
 - ③インクル校(インクルーシブ教育実践推進校)に通う生徒約200名のうち4割が進学、4割が就労、2割が福祉的就労。以前であれば分教室に在籍していた層の生徒であり、就労を目指し

ていく力がある。インクル校の就労支援の強化を図っていく必要がある。

(会長) 防災教育についてはいかがか。

Q (A委員)

・県から「集中豪雨に対する対策」に関する調査があったがどのようにされているか。

A (権太坂小学校校長)

・横浜市は総務局から出ている防災マニュアルがある。本校も西側が斜面になっているものの、学校としての危機感はそれほどなかった。近年の大雨等もあって、先日見直し、発災時は3階以上に避難することにした。

・横浜市は土砂災害の避難訓練が必須となっている。今までやっていなかったが、今年を行う予定。以前は土砂災害警報が出なかったが、警報レベル3になった時に、登校は無理をせず判断するよう呼びかけたところ、380名中78名の児童が欠席した。休校の判断も含め、保護者にも周知していく必要がある。

意見 (管理運営 和田迫 GL)

・本校は前庭が危険区域となっている。2019年に避難場所を前庭からグラウンドに変えた。

意見 (D委員)

・横浜市のマニュアルはあったが、各校の意識は低かったという現状。近年は雨が多く、考えていかなければならない。

Q (会長)

・防災については一度考えればよいというものではないが、地域と共同で考える組織がない。これでは地域と連携した防災訓練は実現しないのではないか。

・進路についても、高1から高3のフレームワークではなく、それ以前からの取り組みが必要。

・進路はよいが、防災は「切れ目ない支援部会」で扱っていいのか。新たな部会を作るとか、継続的に考えていく必要がある。

意見 (D委員)

・横浜は地域の防災拠点が定められており、会議には毎回保土ヶ谷支援の教頭が参加している。ただし、権小に避難できるのは地震の時だけ。備蓄品などは県の教育委員会から出ていると思う。管理職以外の職員が知る機会がないのは課題と感じている。

意見 (C委員)

・地域の方でも崖地を把握していながら、何もできていない現状がある。スクールゾーンも崖地から変更してはいるが、崖地はそのままになっていて、いつ崩れるかわからない。

意見 (C委員)

・今ある組織をうまく活用しながら、という仮定で考えればよいのでは。

意見 (副会長)

・会長が話していたように、新たな部会の設置が良いと思う。F委員も相談できる場を必要としていた。

意見 (会長)

・学校運営協議会の構成を含めて考えていく必要はある。

意見 (D委員)

・在校時だけでなく、自宅で被災された場合の動きもわからない。

意見（C委員）

- ・地域の防災訓練には昨年保土ヶ谷支援からも参加いただいた。今年も10月に行く。

意見（管理運営 和田迫 GL）

- ・地域で熱心にやっというらっしゃる。参加させていただくという形で関わっていけるとよい。地域にこういう学校があり、こういう子供たちがいるということを知っていただければ。

意見（会長）

- ・まずはつながるということで。時間なので、次回以降、また話ができれば。

7 事務連絡（副校長）

- ・次回は12月11日（水） 会場は横浜平沼分教室。また改めて案内を送付させていただく。

8 副会長挨拶

- ・今日も良い議論ができたと思う。

9 会長挨拶

- ・今日も大事な内容だった。次回も議題について考えていただけるとよい。

～本会において、各内容が承認された～

会議資料

※ 添付なし